

言葉が凶器になり、人を死に追いやることもある——。今や、社会にはなくてはならない存在となったSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）。誰もが手軽に自分の思いを発信できるが故に、負の側面も小さくはない。この問題と真正面から向かい合ったドラマが話題となっている。

日本テレビ系列（北海道ではSTV）のドラマ「3年A組—今から皆さんは、人質です—」（毎週日曜日午後10時半）が三月一〇日に最終回を迎えた。視聴率は回を追うごとに上昇し、最終回は平均視聴率一五・四%（関東地区）を記録。日本テレビ系列の同時帯ドラマの最終回としては過去最高を記録した。

舞台は高校。担任の男性教師が卒業式を直前に控えた三年生二九人を入質に教室内に立てこもるという奇抜な設定だが、このドラマのテーマは「いじめ自殺」と「SNS」の関係性だ。このクラスでは、女子生徒一人が自殺していた。SNS上でフェイク動画が流され、炎上。女子生徒は精神的に追い詰められ、自ら命を絶った。

担任はこの原因を突き止めるべく、「事件」を引き起こした。男性教師はドラマのラストで、女子生徒を自殺に追い込んだSNSの愛好者たちに呼びかけた。「言葉は

言葉の暴力と政治家

時として凶器になる。ナイフなんて比にならないくらい、深く、鋭く、心をえぐってくる。「何気ない一言が深く傷つけるかもしれない」。ストリートな言葉が若者の心にも届いたようだ。SNSでは大きな反響を呼んでいた。「これまで自分が言葉で人を傷つけていたことが分かった」「SNSの問題を考えさせられた」——。

◇

◇

いじめ防止対策推進法が二〇一三年九月から施行され、五年以上が過ぎた。滋賀県大津市の中学二年の男子生徒が自殺したことを受けて成立したが、その後も深刻ないじめは減ってはいない。いじめの定義が「緩和」されたこともあるのだろうか、二〇一七年度に全国の小中高校で認知されたいじめは四一万四三七八件で前年度比二八%増。「重大事態」と認定されたのは四七四件で過去最多に上った。いじめが原因で自殺した児童・生徒は一〇人で前年度と同じだった。この中には、SNS上で繰り返し攻撃を受けたケースもある。

教師のいじめ放置をなくすため、いじめに適切に対応しなかった教職員を懲戒処分の対象とする超党派の国会議員で検討されている。ただ、現場の教師たちからは「SNSでのいじめは分からないことが

多い」との戸惑いも漏れる。

◇

◇

「死ぬ」「うざい」「消えろ」。今も、こんな逃げ場のない攻撃的な言葉がSNS上にはあふれている。だが、こうした他人を傷つけるような言葉をはき出すのはSNS上の匿名の人々だけではない。

「産まない方が問題」「はめられたのではないかという意見もある」。元首相の麻生太郎財務相は、不妊、セクハラなどでたびたび失言を繰り返し、居直りと撤回を繰り返している。

白血病を公表した東京五輪の有力メダル候補の水泳選手に「本当にがっかりした」「盛り下がるのではと心配している」などと発言し、謝罪に追い込まれた桜田義孝・五輪担当相も、全体としてみれば、発言の意図が異なるという主張もあるが、たった一言でも当事者にとってみれば受け止め方が異なるだろう。

四月七日と二一日には、四年に一度の統一地方選が行われる。道内では、知事選・道議選、札幌市長選・市議選のほか、三上市町村長選、一二六市町村議選が予定されている。「政治家の質」を見極めて一票を投じたい。

ハ洋▽